

2022年度 国内競技会の危機管理マニュアルについて

公益財団法人日本バレーボール協会
大会運営事業本部 本部長 村上 成司

JVA主催の国内競技会および予選を含む各種大会においては、必ず大会役員に危機管理担当者を置き、自然災害、停電、感染症・伝染病、急病人・怪我人等の対応策を確定し、競技会開始までに、チーム、役員及び観客等に周知すること。特に競技会開始後は、観客には場内アナウンス等で危機管理の対応を周知する。

併せて、大会委員長（危機管理責任者）および危機管理担当者は、競技会までに大会役員と下記の対応策の打合せを行う。

記

- 1) 自然災害対策については、避難経路、避難場所の確認、誘導（動線）の方法を明確にして、選手、チーム役員、役員、観客の安全を確保する。また、基本的に政府及び自治体からのニュースを収集して適切に対応する。
- 2) 停電対策については、避難経路、避難場所の確認、誘導（動線）の方法及び周知の方法（ハンドマイク等）を明確にしておく。
- 3) 感染症・伝染病対策については、罹患者の隔離や消毒など、選手、チーム役員、役員、観客の安全を確保する。また、医療機関や保健所から情報を収集して適切に対応する。
- 4) 急病人・怪我人の手当てについては、会場の応急処置ができる部屋を確保する。また、事前に体育館の救急体制及び救急病院をチェックし、すぐに救急車を要請できるようにしておく。
- 5) 事故（会場施設の破損等）対策については、体育館関係者と連絡を取り、事前に会場で使用する施設・設備の安全性をチェックする等適切に対応する。